

1st Circular

2019年7月10日

*
* 第 20 回東京科学シンポジウム *

* テーマ: 理性と希望の平和な時代を拓く *

* — 実現しよう! 個人の尊厳と生活の安心 — *

* 開催日時: 2019年11月30日(土)~12月1日(日) *

* 開催場所: 中央大学多摩キャンパス *

* 主 催: 日本科学者会議東京支部 *

第 20 回東京科学シンポジウム開催にあたって

実行委員長 米田貢

○近年の東京科学シンポジウムのメインテーマ

1981年に東京大学農学部を会場に第一歩を踏み出し、それ以降隔年で東京支部が開催してきた東京科学シンポジウムは、今年で第20回目を迎えます。2009年の第15回のシンポジウム以降、毎回メインテーマに「理性と希望の平和な時代を拓く」を掲げ、かつ第16回以降は、その時々々の政治・経済・社会・学術の情勢を反映させたサブタイトルを付けてきました。メインテーマ「理性と希望の平和な時代を拓く」をはじめ掲げた2009年は、4月にオバマ米国大統領がプラハで「核兵器を使用したことのある唯一の核兵器保有国として、米国は行動する道義的責任がある」と宣言し、国内では、国民が総選挙ではっきりと自公政権にノーの審判を下し、自民党政治にかわる政治の探究の時代に入った年でした。変化を求める国民の期待を集めて誕生した民主党政権は、旧政権や財界など日本の支配層の根強い抵抗の中で動揺し、国民の期待を裏切る政治も行われ、混迷を深めつつ、これにかわる政治の探究がつづけられた時代でした。このメインテーマにはこうした、「変化を求める国民の期待、新しい政治の探求の時代」の希望が込められています。

○第二次安倍政権の反知性主義との闘い

民主党政権にかわって再び登場した第二次安倍政権は、内容においても政治手法においても、国民の期待とは真逆のものでした。自衛権行使に関する政府解釈をかなぐり捨てて強行した憲法違反の戦争法、九条に自衛隊を書き込むだけで平和主義の原理は変わ

究・教育者としての特有の課題・要求も、広範な国民各層との連帯・共同にもとづいてのみ根本的な解決がはかられます。今年2月に、大学・研究機関のこの現状を大学関係者と市民との共闘によって打開するために、「大学の危機をのりこえ、明日をひらくフォーラム」が結成されました。私たちは、学問の自由と大学の自治の新たな発展のために市民とともに考え行動する運動の発展のために力を合わせたいと思います。私たちは一貫して真理の探究者であるとともに、国民の意識するもろもろの要求の表現者であり、科学的根拠の提供者でありたいと願い、東京科学シンポジウムでは多様な分科会を設置してきました。第20回東京科学シンポジウムが、前回は質的にも量的にも上回る成功をもたらすように、会員の皆さんによる分科会の積極的な設置申請を呼びかけます。

分科会の公募

分科会設置希望者は、氏名、所属（or 分会）、連絡先、分科会名、設置趣旨（200字程度）を記して実行委員会まで申し込んでください。

分科会公募の締切り

○分科会公募の第1次締め切りは2019年8月15日（木）とします。

○申込は原則としてeメール（アドレス：20th-kagaku@jsa-tokyo.jp）とします。

各種イベントの企画

プレ企画や当日のイベントとして、各種の展示と交流の場などの企画を検討しています。ご意見をお寄せください。

第20回東京科学シンポジウム実行委員会

青木和光(支部常任幹事)、江川章(支部幹事)、葛西洋平(支部常任幹事)、衣川清子(支部常任幹事)、○佐久間英俊(支部常任幹事)、土肥有理(支部常任幹事)、中島明子(支部常任幹事)、中野貞彦(支部常任幹事)、中村清二(支部幹事)、真嶋麻子(支部幹事)、松尾一郎(支部幹事)、松永光司(支部代表幹事)、村上研一(支部幹事)、森原康仁(支部常任幹事)、吉村さくら(支部常任幹事)、◎米田貢(支部事務局長)

◎：実行委員長、○：実行委員会事務局長

日本科学者会議東京支部 第20回東京科学シンポジウム実行委員会

〒113-0034 東京都文京区湯島 1-9-15 茶州ビル9階

Tel/Fax : 03-3811-8281 e-mail : 20th-kagaku@jsa-tokyo.jp
